

## \*ピースウィンズ・ショップから\*

### ルワンダ産フェアトレードコーヒー 近日発売!!

PWJが運営するオンラインショップ「ピースウィンズ・ショップ」では、東ティモール産ピースコーヒーをはじめとしたフェアトレード商品やエコグッズなどを販売しています。このラインアップに、フェアトレードのルワンダ産ピースコーヒーが加わります。

ルワンダは「千の丘の国」と呼ばれ、丘陵地が多く、良質なコーヒー栽培に適した火山灰土壤の高地（標高1,500～1,900m）が広がります。ルワンダ産ピースコーヒーは、この豊かな自然の中で育まれたアラビカ種のコーヒーで、とろりとした甘みと、ほどよい苦味の、深みのある芳醇な味わいが特徴です。ぜひ一度、お試しください。

ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop>  
または 03-5304-7493まで。

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの国際支援活動に活用されています。



好評です!  
PWJ  
携帯サイト

PWJの携帯サイト、もうアクセスしていただけましたか？ NEWSや現地ルポなどパソコン用サイトと同様の情報をご覧になっていたらほか、お問い合わせやご支援、会員・サポーターのお申し込みも可能です。

同時に開設したピースウィンズ・ショップの携帯サイトでは、各種クレジットカード、郵便振替、代金引換などで決済が可能です。

PWJ携帯サイトはこちら ➡ <http://www.peace-winds.org/m/>

## 支援地レポート

### アフガニスタン

20年以上、イランに避難していた難民の帰還が決まり、受け入れ準備が進んでいます。国連難民高級弁務官事務所（UNHCR）の要請を受け、現地駐在のPWJ児島淳が、帰還民キャンプ候補地=写真=の視察に同行し、アフガニスタンの国内避難民キャンプやシエラレオネでの難民キャンプ運営の経験も踏まえて、助言を行いました。



### リベリア



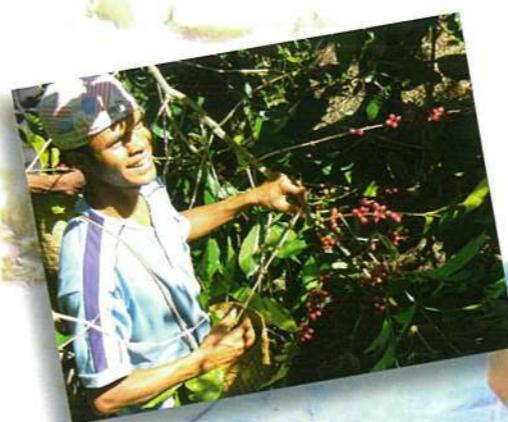
<dff.jp 川嶋あいチャリティーシングクリック募金>からの寄付を受けて、リベリア北西部ロファ州内で建築を進めてきたゲイフロ・デビー小学校の新校舎が完成しました。校長室には川嶋あいさんのポスターも飾られ、式典に集まった子どもたちが、川嶋さんの「旅立ちの日に」の歌をみんなで合唱しました。

### イラク

かつて毒ガス攻撃で大きな被害を受けたイラク北部ハラブジャの町で、PWJは本格的な設備を備えた50床の母子病院を建設しています。鉄筋コンクリートの骨格部分はすでにほぼ完成。設計を担当した荒木洋建築士も現地に入り、工事の進み具合などを確認し、現地の建築家とともに、仕上げに使用するタイルや石も選びました。



## ピースウィンズ・ニュース



# 来輸出年にも100トンへ

コーヒー産地・東ティモールのいま

### 裏作でも収穫作業活況

コーヒー産地・東ティモール・エルメラ県は、赤く熟したコーヒーの実の収穫期を迎えています。コーヒー生産者に対するピースウィンズ・ジャパン（PWJ）の支援は2003年に始まり、今年で7年目。レテフォホ郡の6つの村にまたがるコーヒー生産者組合「カフェ・タタマイラウ」のメンバーたちは、早いところでは5月末から、家族総出で収穫や選別・加工の作業に当たっています。

収穫とその直後の選別でもっとも重要なことは、まだ熟していない実や過完熟の実を混ぜてしまわないこと。コーヒーの味を大きく落としてしまうからです。PWJスタッフとともに品質向上の努力を続けてきた組合メンバーは、選別を徹底することはもちろん、収穫後、良質な「バーチメント」（生豆の外側に乳白色の殻状の皮が付いた状態）に加工するまでの作業を、自らの手でできるようになりました。

日本でもフェアトレード（公正な貿易）という考え方方が広がり、PWJが販売する東ティモール産

peace winds  
JAPAN

支援のプロを、  
世界の現場へ



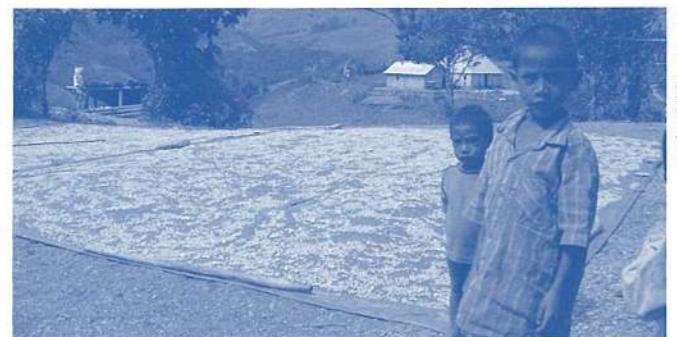
## 10世帯から始まった生産者組合

東ティモールは16世紀後半、ポルトガルの植民地となり、長く支配を受けました。1975年、ポルトガルの植民地放棄直後にインドネシア軍が侵攻し、その後、インドネシアの支配下に置かれました。1999年8月、独立の是非を問う住民投票が行われ、圧倒的多数の住民が独立を支持したものの、併合派の民兵が騒乱を起こしました。

PWJはこの騒乱直後から東ティモール支援を開始。騒乱が落ち着いた後も、自立への支援が必要と考え、ポルトガル植民地時代から生産が続いてきたコーヒーに着目しました。

コーヒー生産者組合は2003年の発足。現在は233世帯が参加していますが、当初の参加メンバーは、わずか10世帯で、初年度のコーヒーの生産量は2トンだけでした。しかし、熟した赤い実だけを選別し、質を落とさないように加工することで付加価値を高め、それによってより高い価格で買い取ってもらえることを目の当たりにしたコーヒー生産者たちは、やがて次々と組合に参加しました。

組合の完全な自立への道のりはまだ長いものの、組合や参加メンバーたちは徐々にその能力を高めてきました。重要な意思決定を行うためのリーダーたちによる会合などが定期的に開かれるようになり、組合の資金を使った小額貸付（マイクロクレジット）の事業も定着。女性グループによる焙煎豆の自主販売など自発的な活動も生まれ、男性中心だった組合の会議にも女性代表が参加する場面もみられるようになってきました。



## 生産者の努力が支える「おいしいコーヒー」

PWJ東ティモール現地代表・齋藤雅治

世界の個性豊かなコーヒー豆がいとも簡単に手に入る日本では、生産者をとりまく環境を正確にイメージすることは容易ではありません。東ティモールに赴任してみると、コーヒー生産の現場は、これまで聞いていた以上に厳しいものでした。

生産者の中には、車でどうにか行けるところからさらに徒歩でなければ行けない山間部に暮らしている農民も多くいます。彼らのコーヒー農園は、細い道をさらに降りたり登ったりしてようやくたどりつける深い山合いにあるのです。

人がやっと立ていられるくらいの急斜面に立つコーヒーの木々の間で毎日の収穫作業は行われます。日当りのいい、しかしとても手の届かない高い枝になっている赤い実は、枝を強く引き寄せ、しなったところを一斉に摘み取ります。収穫後、真っ赤な完熟豆だけを選別し、脱肉機にかけて果肉を取り除きます。この一連の作業を、生産者たちは手慣れた様子で進めていきます。

生産者たちに寄り添い、それぞれの生産者がどのような思いで一粒一粒の豆を選び、精製しているかを、PWJの東ティモール支援を支えてくださっている皆さまや日本でピースコーヒーをお飲みいただく述べてください」と思っています。

## 学校建設など教育支援も

東ティモールでは、教育環境の整備が遅れています。ほとんどの村に小学校はありますが、多くの校舎は狭かったり、傷んだままだったりしています。また、教員の給与支払いが滞り、教員の確保がままならない学校もあります。こうした状況を改善するため、PWJでは東ティモール・レテフォホで教育面での支援も行っています。

2007年にオロパナ集落の小学校の増築を行い、風雨が入り込むことのない校舎を建設しました。

2009年5月からは、ドゥクライ村のレブドゥ小学校の新校舎建設に取り組み始めました。同校は住民によって建てられた学校ですが、教室のスペースが足りないため、現在は3年生までの約100人だけが通学し、上級生は片道1時間以上かけて別の学校に通っています。

壁は竹を組んだだけで、床は土間のため、雨期になると校舎の中までびしょぬれです。全学年そろうことことができ、勉強にするのにふさわしい環境が求められていました。

東ティモールでは、学校に行つたことのない人も多く、とくに成人女性でこの傾向が強くあります。家計のことを計画的に考え、不利な条件での借金を増やしてしまわないためにには、読み書きや計算能力を身に付けることも重要です。PWJは2007年、試験的な取り組みとして、コーヒー生産者の女性たちを対象とした「算数教室」も開催しました。



シンガーソングライター川嶋あいさん(つばさレコーズ)の協力で校舎新築が決まったレブドゥ小学校

## ピースウォーターをレテフォホに

PWJは「すべての人に水を」を合い言葉に、安全できれいな水を手に入れることができない人々に対する活動「ピースウォーターキャンペーン」を世界各地で続けています。水はまさに生命と生活を支えるもっとも重要なものだからです。

東ティモール・レテフォホでも、簡易水道の整備や貯水タンクの設置などの支援を継続しています。2008年には、乾期になると子どもたちが毎日6時間もかけて水くみをしなければならなかったドゥクライ村の3つの集落に貯水タンクを設置し、子どもたちの負担を大きく減少させました。2009年も引き続き、同村内の別の集落を対象に給水設備の設置を行いました。



PWJの東ティモール支援は、会員・サポーターのみなさまの会費・ご寄付のほか、国際協力機構（JICA）、ジャパン・プラットフォーム、フェリシモ（地球村の基金）、アサップネットワーク、三菱電機関連労働組合連合会、川嶋あい（つばさレコーズ）、公文教育研究会などの協力を得て継続してきました。また、フェアトレードコーヒーとピースウィンズ・ショップなどの販売による収益は、東ティモール事業をはじめとするPWJの活動に活用しています。

## 村に生きる 東ティモール・ドゥクライ村

### 独立闘争を支え、いまはコーヒー生産で子どもを学校に通わせるイルダ・ソアレスさん

多くの困難に直面してきた東ティモールの人びと。しかし、高品質のコーヒーの生産は、その状況を少しずつですが変えつつあります。コーヒー生産者組合「カフェ・タタマイラウ」に2003年設立当初から参加しているドゥクライ村レブドゥ集落のイルダ・ソアレスさん（46歳）もそんな1人。5人の子どものうち、一番上のトラザさん（21歳）が今年から農業について学ぶため、離れた町の高校に通い始めたのです。ソアレスさんは「これもPWJが良質のコーヒーの生産・加工技術を教えてくれて、フェアトレード商品として高く買ってくれるおかげ」と目を細めています。

ソアレスさんの人生は、他の東ティモールの人と同様、苦労の絶えないものでした。

「一番大変だったのは、1970年代後半にインドネシア軍が東ティモールに侵攻してきたころ。私たち家族は軍の暴力から逃れるため、マウベシ県からアイレウ県、そして今住んでいるエルメラ県レテフォホへと住む場所を転々としました。レテフォホでも軍の動きに合わせて、1週間のうち半分は家で、半分は農園で夜を明かしていました」

軍がレテフォホから退去した後は、独立に向けて活動するフレテリン（東ティモール独立革命戦線）を支援しました。家族だけなく、フレテリンの仲間にも食べさせるため、多くのトウモロコシを栽培しました。危険な行為でした。

そして、1999年8月30日。国連などの仲介で東ティモール独立の賛否を問う住民投票が実施されました。「あの日を迎えたことは、本当にうれしかった」とソアレスさんは振り返ります。しかし、希望は長くは続かず、独立に反対する民兵たちが東ティモール各地で暴動を起こし、多くの住民が避難民となりました。東ティモールは2002年5月に独立を果たしましたが、その後も騒乱は繰り返されました。

「いろいろなことがありました。独立を勝ち取ることができて本当によかったです。政府からの支援は私たちの集落まではなかなか届いてきませんが、PWJが私たちを支援してくれる。コーヒーだけでなく、野菜づくりの指導や、学校・水道施設の建設も進めてくれて、いろいろな面で私たちの生活がよくなるように努力してくれています」

ソアレスさんは、子どもたちの将来に期待をかけながら、「これからもずっとPWJとともに活動を続けて、毎年良いコーヒーをつくりたい」と話しています。

若子どもたちに囲まれるソアレスさん



## スリランカ支援にご協力を

内戦が終結したスリランカでは、反政府軍の支配地域に住んでいた住民が逃れてきており、国内避難民（IDP）キャンプで、水や食糧が不足しています。PWJはキャンプ内の約7000人を対象に、不足している魚や野菜などの食糧配布と、給水車による水供給を実施する予定です。PWJのスリランカ緊急支援にご協力をお願いします。

\*PWJのスリランカ緊急支援は、ジャパン・プラットフォームの協力も得て実施する予定です。



【郵便振替】 口座番号：00160-3-179641  
加入者名：ピースウィンズ・ジャパン  
\*通信欄に「スリランカ」と明記してください。

【銀行口座】 銀行名：三井住友銀行青山支店  
口座番号：普通 1671932  
口座名義：特定非営利活動法人  
ピースウィンズ・ジャパン広報部  
\*スリランカをはじめPWJ活動全般への支援となります。  
\*領収書が必要な場合はご連絡ください。

【ホームページから】 クレジットカード、イーベンク銀行、ジャパンネット銀行からご寄付いただけます。  
<http://www.peace-winds.org/>

ピースウィンズ 検索

\*携帯サイトからもご寄付いただけます。アクセス方法は裏面をご覧ください。

### ●書き損じの「官製ハガキ」を寄付してください

みなさまのお宅に、書き損じや未使用の「官製ハガキ」はありませんか？ 少量でも、どんなに古いものでも結構ですので、PWJに送ってください。

こんな呼び掛けを始めたところ、多くの方がハガキ寄付（通称「ハガキフ」）に応じてくださいました。未使用の切手も歓迎です。ハガキを交換して得た資金をPWJの国際支援活動に使わせていただきますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

#### <ハガキ寄付の方法>

お申し込みなどは不要です。「官製ハガキ」を直接、PWJへお送りください。

#### <送り先>

〒151-0073

東京都渋谷区笹塚3-2-15 第二ベルプラザ  
ピースウィンズ・ジャパン ハガキ寄付係

\*恐れ入りますが送料のご負担をお願いします。

\*受領書が必要な方は「受領書必要」とお書き添えください。ただし、受領書の発行は、ハガキ額面の合計が1,000円以上の場合に限らせていただきます。

支援者サービスの窓